

令和元年6月14日現在

機関番号：12101

研究種目：国際共同研究加速基金（国際活動支援班）

研究期間：2015～2018

課題番号：15K21760

研究課題名（和文）古代アメリカの比較文明論

研究課題名（英文）Comparative Studies of Ancient American Civilizations

研究代表者

青山 和夫（Aoyama, Kazuo）

茨城大学・人文社会科学部・教授

研究者番号：70292464

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 43,300,000円

研究成果の概要（和文）：本領域研究は、領域として国際活動を推進することにより、新たな国際共同研究を推進できた。若手を中心に研究者の相互派遣を行うことによって、海外のラテンアメリカ研究者との国際的なネットワークのハブを形成した。国際研究活動によって、本領域に関連する国際的な研究者コミュニティをリードし、国際社会における我が国の存在感を維持・向上できた。正確な編年に基づいてメソアメリカ文明とアンデス文明の社会変化のプロセスを比較できた。本領域研究は、現代の中南米諸国における歴史認識の刷新、古代アメリカ文明を資源とする芸術的創造、産業化、国民の文化的アイデンティティの形成、中南米の地域的アイデンティティの形成に寄与する。

研究成果の学術的意義や社会的意義

西洋人の侵略・植民地化によって「敗者」となった古代アメリカの二大文明は、歴史の表舞台から消され、後世に及ぼす影響が過小評価されている。メソアメリカとアンデスでは、先スペイン期から現代までの先住民の研究が通時的に結び付けて論じられることは少ない。考古学、歴史学、文化人類学の研究は専門化・細分化され、各研究分野の研究者間の交流がほとんどない。今なお学術研究と一般社会のもつ知識の隔たりは大きい。「歴史は勝者によって書かれる」としばしば言われる。本領域研究は、主に「勝者」の西洋人によって理解され、語られてきたメソアメリカ文明とアンデス文明を新たな視点や手法によって見直す。過去から歴史的教訓を学ぶ。

研究成果の概要（英文）：By carrying out international academic activities, we were able to advance international joint studies. We sent a lot of scholars, especially younger scholars to Latin American countries and were able to form international networks with Latin American scholars all over the world. Our international academic exchange made us to lead international scholars' communities and improve the presence of Japanese scholars among them. Based on refined chronology, we were able to compare social changes in Mesoamerica and Andes. Our project can contribute to a reform of historical understanding in Latin American countries, artistic creation and industrialization as a resource created by means of Ancient American civilizations, formation of national and regional identities in Latin America.

研究分野：人類学としてのマヤ文明学・比較文明論

キーワード：メソアメリカ アンデス 比較文明論 考古学 歴史学 文化人類学 自然科学的編年 国際研究交流

## 様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19（共通）

### 1. 研究開始当初の背景

西洋人の侵略・植民地化によって「敗者」となった古代アメリカの二大文明は、歴史の表舞台から消され、後世に及ぼす影響が過小評価されている。メソアメリカとアンデスでは、先スペイン期から現代までの先住民の研究が通時的に結び付けて論じられることは少ない。考古学、歴史学、文化人類学の研究は専門化・細分化され、各研究分野の研究者間の交流がほとんどない。今なお学術研究と一般社会のもつ知識の隔たりは大きい。「歴史は勝者によって書かれる」としばしば言われる。本領域研究は、主に「勝者」の西洋人によって理解され、語られてきたメソアメリカ文明とアンデス文明を新たな視点や手法によって見直す。両文明に関する既存の研究の限界としては、(1)メソアメリカ文明とアンデス文明が個別に研究されてきたために、旧大陸の文明の影響を受けずに発達した一次文明としての両文明の特性や社会変動が比較研究によって十分に検討されてこなかった、(2)北半球で確立した世界標準の年代目盛が、アンデス地域のような南半球の低緯度では10数年ほどずれるために、メソアメリカ文明とアンデス文明の通時的比較研究に困難が伴う、(3)研究対象とする時代が、スペイン人の侵略以前のいわゆる先スペイン期に限定されており、古代アメリカ文明の後世への影響が考慮されていない、という3点が挙げられる。

### 2. 研究の目的

本領域研究の目的は、①精密な自然科学的年代測定法や古環境復元によって、メソアメリカとアンデスの高精度の編年を確立し環境史を解明する、②精密な編年をもとにメソアメリカ文明とアンデス文明の詳細な社会変動に関する通時的比較研究を行う、③植民地時代から現代まで、メソアメリカとアンデスの文明が中南米の先住民文化に及ぼした影響を「古代文明の資源化」をキーワードに検証することである。さらにこれらの成果をもとに導かれる文明研究の今日的意義を探求する。

### 3. 研究の方法

本領域研究は、国内外の共同研究者と密接に協力しながら、世界的な学術水準の国際連携プロジェクトとして実施する。領域内の計画研究と有機的に連携しつつ領域として国際活動を推進することにより、新たな国際共同研究の推進が期待できる。そのために、若手を中心に研究者の相互派遣を行うことによって、海外のラテンアメリカ研究者との国際的なネットワークのハブを形成する。こうした国際研究活動によって、本領域に関連する国際的な研究者コミュニティをリードし、国際社会における我が国の存在感を維持・向上する十分な貢献が期待できる。中堅・若手の文系と理系の多様な研究者を中心とする本領域研究の推進は、古代アメリカの比較文明論研究の学術水準を国際的に向上・強化させ、革新的な人材育成につながると期待される。

### 4. 研究成果

青山と井上は、ペルーのアンデス文明の諸遺跡や博物館を訪れ、現地の研究者と国際的なネットワークのハブを形成し、メソアメリカ文明との比較研究の基礎的文献を収集した。杓谷は、メキシコにおけるマヤ遺跡観光との比較の観点から、ペルーのナスカ及びペルー北部のカハマルカからトルヒーヨにかけての遺跡や歴史遺産を訪れ、同地における観光インフラの整備状況や古代文明イメージの活用のおそれなどを観察し、現地で調査を行っている研究者と意見交換を行った。メキシコのチチェン・イツァ遺跡公園をはじめとしてユカタン州及びキンタナ・ロー州のマヤ文明の遺跡公園における観光化を巡る問題について調査を行うとともに関係者と意見交換を行った。比較の観点から、同国 Cholula 遺跡公園を訪れ、観光インフラの整備状況や古代文明イメージの活用のおそれなどを観察した。生月はエクアドルにて先住民教育と先住民文化の現地調査を継続実施した。

国際連携を推進するために若手研究者をテュレーン大学に派遣した。またテュレーン大学と共同でナスカ台地周辺の墓地遺跡を発掘調査した。さらに日本、フランス、ペルーの若手研究者の育成を推進した。若手研究者の八木百合子(国立民族学博物館)とダニエル・サウセド(立命館大学)をペルーに派遣し、現在のアンデス地域における古代アメリカ文明の資源化に関する調査を推進した。本領域研究に参加した大部分の研究者は中堅・若手であり、本領域研究を推進することによって、当該領域における人材育成に繋がった。本領域研究に参加した若手の研究者のうち10名が常勤、5名が任期付の研究職を得た。

メキシコ、アメリカ、グアテマラとアルゼンチンの国際的に著名な研究者をH28年度に招聘し、日本で初めてメソアメリカ研究者国際会議を東京で主催した。青山は、メキシコ国立自治大学の研究者と協力してメソアメリカ文明に関するスペイン語論文集をメキシコ国立自治大学から2019年に出版するために国際活動を推進した。アメリカを代表するナスカ研究者であるカリフォルニア大学のケビン・ボーン副学部長を招待して、国際学術講演会及びRound Table Conference on Nasca 2016を実施した。テュレーン大学の4名の研究者を招聘してナスカの地上絵とメソアメリカの絵文書、人身供儀、神殿と都市に注目した国際学術講演会及び暴力、文字、辺境の観点からアンデス文明とメソアメリカ文明を比較する国際シンポジウムをH28年度に実施した。

鈴木はニュージーランドでH28年度に開催されたCELAO(アジア大洋州ラテンアメリカ研究協議会)の分科会、H29年度にセルビアで開催されたFIEALC(ラテンアメリカ・カリブ海地域研究国際連合)やH30年度にスペインで開催された国際アメリカニスト会議で分科会を組織し、領域メンバーを派遣して研究発表を行った。鈴木はH29年度に国立民族学博物館で国際シンポジウムを主催し、メキシコとペルーから研究者を招聘した。坂井はパリ第一大学および教皇庁立ペルー・カトリカ大学と共同研究を

実施した。

H30年度には、メキシコ国立自治大学人類学研究所との国際会議を企画、実施した。領域のメンバーが研究発表をスペイン語で行って、諸外国の研究者と意見交換を活発に行い、国際共同研究を推進した。イェール大学のアンデス文明研究者を招聘して、国際学術講演会や国際シンポジウムを実施した。井上はアステカ史の史料をウェブ上で公開する共同研究をメキシコ国立人類学歴史学研究所等と進め、2019年6月公開した。また、研究成果の社会への還元として専修大学図書館で絵文書展示をH30年度に実施した。

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 72 件)

1. 井上幸孝「植民地時代メキシコ中央部の先住民村落における「権原証書」(títulos primordiales)の作成と使用」『近代ヒスパニック世界と文書ネットワーク(国立民族学博物館論集、吉江貴文編)』, 255-274, 2019, 査読有.
2. マキロップ, ヘザー, 青山和夫「古典期マヤ文明の魚の加工と塩:ベリーズ南海岸パインズ・クリーク製塩遺跡群のチャート製石器の使用痕分析」『古代アメリカ』21:27-38, 2018, 査読有.
3. 青山和夫, バルバラ・アロヨ, ヘンリー・ロドリゲス「マヤ高地の黒曜石製石器とカカオの加工:グアテマラ高地カミナルフユ遺跡の実験使用痕研究」『古代アメリカ』21:89-101, 2018, 査読有.
4. McKillop, Heather and Kazuo Aoyama Salt and Marine Products in the Classic Maya Economy from Use-wear Study of Stone Tools. *Proceedings of the National Academy of Sciences National Academy of Sciences* 115(43):10948-10952, 2018, 査読有.  
<https://doi.org/10.1073/pnas.1803639115>
5. Lohs, Jon C., W. Derek Hamilton, Mark Brenner, Jason Curtis, Takeshi Inomata, Molly Morgan, Karla Cardona, Kazuo Aoyama and Hitoshi Yonenobu Late Holocene volcanic activity and environmental change in Highland Guatemala. *Quaternary Science Reviews* 191:378-392, 2018, 査読有. <https://doi.org/10.1016/j.quascirev.2018.05.014>
6. Inomata, Takeshi, Daniela Triadan, Flory Pinzón, Melissa Burham, José Luis Ranchos, Kazuo Aoyama and Tsuyoshi Haraguchi Archaeological application of airborne LiDAR to examine social changes in the Ceibal region of the Maya lowlands. *PLOS ONE* 13(2): e0191619, 2018, 査読有.  
<https://doi.org/10.1371/journal.pone.0191619>
7. 青山和夫「マヤ文明の地域間・遠距離交換の通時的研究—グアテマラ共和国セイバル遺跡の黒曜石製石器を中心に—」『古代文化』69(4):36-55, 2018, 査読有.
8. Suzuki, Motoi Para el 'Renacimiento' de las civilizaciones prehispánicas: un estudio comparativo de representacion museográfica. *América Latina y el mundo del siglo XXI: Percepciones, interpretaciones e interacciones* 2:245-251, 2018, 査読有.
9. Sakai, Masato and Jorge Olano Pampa de Nasca 2000 años de actividad en los geoglifos. *El Top Anual De Los Grandes Descubrimientos del Perú* (Editorial TDP), 336-345, 2018, 査読無.
10. Suzuki, Motoi La diversidad en la representación de las civilizaciones prehispánicas: un estudio comparativo de la museografía. *Arte: memoria del 56o Congreso Internacional de Americanistas 3* (Ediciones Universidad de Salamanca), 256-258, 2018, 査読無.
11. Ikezuki, Wataru Revalorización de la "Interculturalidad" en la relación entre el pasado y la diversidad cultural contemporánea de los indígenas en Ecuador. *Arte: Memoria del 56º Congreso Internacional de Americanistas* 3:413-417, 2018, 査読無.  
[http://dx.doi.org/10.14201/0AQ0251\\_3](http://dx.doi.org/10.14201/0AQ0251_3)
12. Shakuya, Shigeki El patrimonio cultural y la naturaleza en la situación del turismo masivo: el caso de los parques arqueológicos en la parte norte del Caribe Mexicano. *América Latina y el mundo del siglo XXI: Percepciones, interpretaciones e interacciones* 1 (Universidad Megatrend), 339-344, 2018, 査読有.
13. Aoyama, Kazuo Preclassic and Classic Maya Interregional and Long-Distance Exchange: A Diachronic Analysis of Obsidian Artifacts from Ceibal, Guatemala. *Latin American Antiquity* 28(2):213-231, 2017, 査読有. <https://doi.org/10.1017/laq.2017.2>
14. Aoyama, Kazuo Ancient Maya Economy: Lithic Production and Exchange Around Ceibal, Guatemala. *Ancient Mesoamerica* 28(1):279-303, 2017, 査読有.  
<https://doi.org/10.1017/S0956536116000183>
15. Aoyama, Kazuo El Intercambio de Obsidiana durante los Períodos Preclásico y Clásico en Ceibal, Guatemala. *XXX Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*, 949-959, 2017, 査読無
16. Aoyama, Kazuo, Takeshi Inomata, Flory Pinzón and Juan Manuel Palomo The Development of Maya Civilization and Public Rituals of the Preclassic Maya: Polished Greenstone Celt Caches from Ceibal, Guatemala. *Antiquity* 91(357):701-717, 2017, 査読有. <https://doi.org/10.15184/aqy.2017.44>
17. Aoyama, Kazuo, Takeshi Inomata, Daniela Triadan, Flory Pinzón, Juan Manuel Palomo, Jessica MacLellan and Ashley Sharpe Early Maya Ritual Practices and Craft Production: Late Middle Preclassic Ritual Deposits Containing Obsidian Artifacts at Ceibal, Guatemala. *Journal of Field Archaeology* 42(5):408-422, 2017, 査読有. <https://doi.org/10.1080/00934690.2017.1355769>

18. Inomata, Takeshi, Daniela Triadan and Kazuo Aoyama After 40 Years: Revisiting Ceibal to Investigate the Origins of Lowland Maya Civilization. *Ancient Mesoamerica* 28(1):187-201, 2017, 査読有. <https://doi.org/10.1017/S0956536117000037>
19. Inomata, Takeshi, Flory Pinzón, José Luis Ranchos, Tsuyoshi Haraguchi, Hiroo Nasu, Juan Carlos Fernandez-Diaz, Kazuo Aoyama and Hitoshi Yonenobu Archaeological Application of Airborne LiDAR with Object-Based Vegetation, Classification and Visualization Techniques at the Lowland Maya Site of Ceibal, Guatemala. *Remote Sensing* 9(6):1-27, 2017, 査読有. <https://doi.org/10.3390/rs9060563>
20. 青山和夫, 嘉幡茂, 市川彰, 長谷川悦夫, 福原弘織, 塚本憲一郎「メソアメリカ文明の通時的比較研究序論」『古代アメリカ』20:79-94, 2017, 査読有.
21. 猪俣健, 青山和夫, フローリー・ピンソン, ホセ・ルイス・ランチョス, 原口強, 那須浩郎, 米延仁志「マヤ文明のセイバル遺跡と周辺部の航空レーザー測量と考古学調査」『古代アメリカ』20:123-134, 2017, 査読有.
22. 青山和夫「特輯「古代アメリカの比較文明論の新展開」(下)に寄せて」『古代文化』69(1):61-62, 2017, 査読有.
23. 青山和夫「特輯「古代アメリカの比較文明論の新展開」(上)に寄せて」『古代文化』68(4):55-57, 2017, 査読有.
24. 青山和夫「先古典期マヤ文明の王権の起源と形成」『古代文化』68(4):58-65, 2017, 査読有.
25. 鈴木紀「博物館の中のマヤ文明:表象と政治性」『古代文化』69(1):96-108, 2017, 査読有.
26. 井上幸孝「植民地時代の先住民記録に見る先スペイン期の歴史像の形成」『古代文化』69(1):84-95, 2017, 査読有.
27. 坂井正人「ナスカの地上絵と神殿:アンデス文明のイデオロギーと権力をめぐって」『古代文化』69(1):63-72, 2017, 査読有.
28. 山本睦, 坂井正人, ホルヘ・オラーノ, 松本雄一「ペルー南海岸、ラ・ベンティエーヤ遺跡の発掘調査」『古代アメリカ』20:95-106, 2017, 査読有.
29. Inomata, Takeshi, Daniela Triadan, Jessica MacLellan, Melissa Burham, Kazuo Aoyama, Juan Manuel Palomo, Hitoshi Yonenobu, Flory Pinzón and Hiroo Nasu High-precision radiocarbon dating of political collapse and dynastic origins at the Maya site of Ceibal, Guatemala. *Proceedings of the National Academy of Sciences* 114(6): 1293-1298, 2017, 査読有. <https://doi.org/10.1073/pnas.1618022114>
30. Sakai, Masato, Yoshimitsu Ccoyllo, Jorge Olano, Yuichi Matsumoto and Atsushi Yamamoto Avances del Proyecto de Investigación Arqueológica Líneas y Geoglifos de las Pampas de Nasca, Campaña 2014. *Actas del II Congreso Nacional de Arqueología* 2:31-35, 2017, 査読無.
31. Aoyama, Kazuo La Manufactura de los Objetos de Concha y Lapidaria entre los Antiguos Mayas: Los Resultados del Análisis de Microhuellas de Uso sobre Artefactos Líticos con el Microscopio de Gran Alcance. *XXIX Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*, 1031-1040, 2016, 査読無.
32. 青山和夫「メソアメリカ比較文明論試論—古代アメリカの比較文明論の新展開に向けて—」『古代アメリカ』19:47-61, 2016, 査読有.
33. Aoyama, Kazuo Warfare, Warriors, and Weapons. *Encyclopedia of the Ancient Maya* (Rowman & Littlefield), 376-379, 2016, 査読有.
34. Sakai, Masato and Jorge Olano Resultados preliminares del Proyecto de Investigación Líneas y Geoglifos de las Pampas de Nasca. *Actas del Primer Congreso Nacional de Arqueología* 1: 283-290, 2016, 査読有.
35. Aoyama, Kazuo and Elizabeth Graham Ancient Maya Warfare: Exploring the Significance of Lithic Variation in Maya Weaponry. *Lithics: the Journal of the Lithic Studies Society* 36:5-17, 2015, 査読有. <http://journal.lithics.org/index.php/lithics/article/view/450/444>
36. Aoyama, Kazuo Microwear Analysis of the Obsidian Macroblade. *Temple of the Night Sun: A Royal Tomb at El Diablo, Guatemala* (Precolumbian Mesoweb Press), 240-242, 2015, 査読有.
37. 青山和夫「先古典期マヤ文明の宗教儀礼とものづくり—グアテマラのセイバル遺跡で先古典期中期に埋納された黒曜石製石器を中心に—」『古代アメリカ』18:41-63, 2015, 査読有.
38. Inomata, Takeshi, Jessica MacLellan, Daniela Triadan, Melissa Burham, Kazuo Aoyama, Hiroo Nasu, Jessica Munson, Flory Pinzón and Hitoshi Yonenobu Co-existing Mobile Groups and Public Ceremonies at Ceibal, Guatemala. *Proceedings of the National Academy of Sciences* 112:4268-4273, 2015, 査読有. <https://doi.org/10.1073/pnas.1501212112>
39. 青山和夫「マヤ文明の起源と公共祭祀—グアテマラ・セイバル遺跡の公共祭祀建築と緑色石製磨製石斧の供物を中心に—」『古代文化』67:53-72, 2015, 査読有.
40. 鈴木紀「資源化される古代文明:遺跡の調査と活用に関わるアクター分析—序論」『古代アメリカ』18:95-102, 2015, 査読有.
41. 杓谷茂樹「資源としての「古代都市チチェン・イツァ」—交叉するステークホルダーそれぞれの思惑と地元露店商」『古代アメリカ』18:117-130, 2015, 査読有.
42. Aoyama, Kazuo Symbolic and Ritual Dimensions of Exchange, Production, Use, and Deposition of Ancient Maya Obsidian Artifacts. *Obsidian Reflections: Symbolic Dimensions of Obsidian in*

- Mesoamerica* (University Press of Colorado), 127-158, 2014, 査読有.
43. Aoyama, Kazuo, Hitoshi Yonenobu, Takeshi Inomata, Kazuyoshi Yamada, Hiroo Nasu, Toshiyuki Fujiki, Yoshitsugu Shinozuka, Katsuya Gotanda and Yoshiharu Hoshino *Investigaciones Arqueológicas y Paleoambientales en y alrededor de Ceibal, Petén, Guatemala. XXVII Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*, 987-995, 2014, 査読無.
  44. 青山和夫, 米延仁志, 坂井正人, 鈴木紀「古代アメリカの比較文明論」プロジェクトの目標と展望『古代アメリカ』17:119-127, 2014, 査読有.
  45. 青山和夫「先古典期マヤ文明の遠距離交換と石器製作—グアテマラ共和国セイバル遺跡の先古典期中期の打製石器—」『考古学研究』61:83-94, 2014, 査読有.
  46. Inoue, Yukitaka Un análisis de dos Codices Techialoyan: Huixquilucan y Cuajimalpa. *Quaderni di Thule* 13:609-614, 2014, 査読無.

[学会発表](計 93 件)

1. Inoue, Yukitaka Imagen histórica de los reyes indígenas en las obras de don Fernando de Alva Ixtlilxóchitl. グアナフアト大学学術講演会(メキシコ、グアナフアト市), 2019.
2. Inoue, Yukitaka El concepto de “autor” en la tradición historiográfica indígena novohispana International Conference: Indigenous Knowledge as a Resource? Transmission, Reception, and Interaction of Global and Local Knowledge between Europe and the Americas 1492-1800 (テュービンゲン大学、ドイツ、テュービンゲン市), 2018.
3. Aoyama, Kazuo Estudio de la lítica maya: Los resultados del análisis de los artefactos líticos de Copán, Aguateca y Ceibal (1986-2018). Coloquio Internacional México-Japón: Las Sociedades Mesoamericanas y los Cambios Culturales en su Proceso Histórico (メキシコ国立自治大学、メキシコ市), 2018.
4. Aoyama, Kazuo La problemática y valoración del pasado de los Mayas: Un caso de estudio sobre el sitio arqueológico de Ceibal, Guatemala. 56 Congreso Internacional de Americanistas (サラマンカ大学、スペイン、サラマンカ市), 2018.
5. Suzuki, Motoi Para el “renacimiento” de las civilizaciones prehispánicas: un estudio comparativo de representación museográfica. XVIII Congreso de la Federación Internacional de Estudios sobre América Latina y el Caribe (FIEALC) (Megatrend University、セルビア、ベオグラード市), 2017.
6. Ikezuki, Wataru Rethinking the significance of “Interculturalidad” for continuing and maintaining ancient Andean Civilization in a contemporary cultural context by indigenous people and their bilingual intercultural education in Ecuador. XVIII Congreso de la Federación Internacional de Estudios sobre América Latina y el Caribe (FIEALC) (Megatrend University、セルビア、ベオグラード市), 2017.
7. Aoyama, Kazuo, Bárbara Arroyo and Henry Rodriguez El análisis de microhuellas de uso sobre artefactos líticos de obsidiana de Kaminaljuyu de los períodos Preclásico Tardío y Clásico Temprano, Guatemala. XXXI Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala (グアテマラ国立考古学民族学博物館、グアテマラ市), 2017.
8. Inoue, Yukitaka Reflexión histórica acerca de los títulos primordiales de los pueblos originarios del valle de México. Seminario Permanente Etnografía de la Cuenca de México (メキシコ国立自治大学人類学研究所、メキシコ市), 2016.
9. Graham, Elizabeth, Simon Martin and Kazuo Aoyama No solo comercio, sino también poder. 10 Congreso Internacional de Mayistas (Centro Estatal de Capacitación, Investigación y Difusión Humanística、メキシコ、イサマル市), 2016.
10. Sakai, Masato Los geoglifos: Rituales, Líneas vs. Figuras Biomórficas, Cronología. Simposio Internacional: Nasca. Vida, Muerte y Transformación en el Desierto (Museo de Arte de Lima、ペルー、リマ市), 2016.
11. Aoyama, Kazuo Rituales Públicos y la Producción Artesanal entre los Mayas del Preclásico Medio: un Estudio de Artefactos Líticos de Ceibal, Guatemala. Jornadas de Lítica Maya (メキシコ国立自治大学、メキシコ市), 2015.

[図書](計 4 件)

1. Sakai, Masato, Jorge Olano and Hiraku Takahashi *Centros de Líneas y Cerámica en las Pampas de Nasca, Perú, hasta el año 2018*, 112頁, Yamagata University Press, 2019.
2. 大城道則, 青山和夫, 関雄二『世界のピラミッド大事典』, 639頁, 終風社, 2018.
3. 井上幸孝, 佐藤暢『人間と自然環境の世界誌—知の融合への試み』, 277頁, 専修大学出版局, 2017.
4. 青山和夫『マヤ文明を知る事典』, 336頁, 東京堂出版, 2015.

[その他]

ホームページ等

<http://dendro.naruto-u.ac.jp/csaac/>

<https://info.ibaraki.ac.jp/Profiles/5/0000403/profile.html>

## 6. 研究組織

### (1)研究分担者

研究分担者氏名:米延 仁志(YONENOBU Hitoshi)

所属研究機関名:鳴門教育大学

部局名:大学院学校教育研究科

職名:教授

研究者番号:20274277

研究分担者氏名:坂井 正人(SAKAI Masato)

所属研究機関名:山形大学

部局名:人文社会科学部

職名:教授

研究者番号:50292397

研究分担者氏名:鈴木 紀(SUZUKI Motoi)

所属研究機関名:国立民族学博物館

部局名:人類文明誌研究部

職名:教授

研究者番号:40282438

研究分担者氏名:井上 幸孝(INOUE Yukitaka)

所属研究機関名:専修大学

部局名:文学部

職名:教授

研究者番号:20399075

研究分担者氏名:杓谷 茂樹(SHAKUYA Shigeki)

所属研究機関名:公立小松大学

部局名:国際文化交流学部

職名:教授

研究者番号:90410654

研究分担者氏名:生月 亘(IKEZUKI Wataru)

所属研究機関名:関西外国語大学

部局名:英語国際学部

職名:准教授

研究者番号:90300285